

# 俺たちが最高!!

何を起こすのか...若い「夜の戦士たち」10万人!  
真夜中のニューヨークに、各「組」9名づつが集った!



# ウォリアーズ

THE  
WARRIORS

マイケル・ベック / ジェームズ・レマー / 他、オール・ニュースター

監督ウォルター・ヒル / 原作ソル・ユーリック / 音楽バリー・デ・ボーン  
(邦訳 - 講談社刊) (サントラ盤 - アルファレコード)

カラー作品 パラマウント映画  CIC配給 

# THE WARRIORS ウォリアーズ



製作.....ロレンス・ゴードン  
 監督.....フランシス・コッポラ  
 脚本.....デビッド・セゲル  
 原案.....ジョン・ホーランド  
 編集.....デビッド・ホルツマン  
 音楽.....バリー・デ・ボン  
 マイケル・ベック  
 ジェームズ・レイマー  
 トーマス・ウェイト  
 マーシー・ライオン  
 ブライアン・タイラー  
 デビッド・ハリス  
 トム・マックターリック  
 マルセリーノ・サンチェス  
 テリー・ミコス  
 デボラ・ファン・ファルケンバー  
 ロジャー・ヒル  
 デビッド・パトリック・ケリー

●カラー作品●パラマウント映画●CIC配給

## 解説

これだ！この映画だ！！  
 79年2月9日、全米公開後あきらかにこの映画を原因とする観客による殺傷事件が連続した。映画は俄かに社会問題化した。映画会社は全国的な宣伝自粛、州による公開中止と異例の処置を取らざるをえなくなった。相次ぐ事件が途方もない衝撃を呼んだ。この映画が放射する異様な興奮に全身を支配されたストリート・キッド達の行だった。

夜のニューヨーク。この大都会を自分達のエネルギーで手に入れようと企む男がいた。その名はサイラス。ニューヨーク市警2万人とマフィアまでも駆逐しようとするむ十代の軍団10万人の頂点に立とうとする男だ。

暑い夏の夜、休戦協定によってニューヨークのあらゆる地域から、それぞれの個性を色づけるユニフォームに身を固めた百組の十代のストリート・キッドが集まって来た。ブロンクス公園がその会場だ。会場が熱した時、一発の銃声がサイラスを倒した。やったのは「ウォリアーズ」というグループだという噂が広まった。休戦協定は破れた。全てのグループが「ウォリアーズ」を狙う。「ウォリアーズ」のメンバーはブロンクスから彼らのシマであるコニーアイランドまで45キロ、命がけの脱出に賭けた。他グループの縄張りを通過する度に、そこは戦場だった.....

血ぬられた話題に彩られ、いよいよ日本へ上陸するこの映画は、「ウォリアーズ」のメンバーをはじめ、全てのグループのストリート・キッド達を演じる若手の、その殆どが映画初出演である。しかしスワン役のマイケル・ベック、エイジャックス役のジェームズ・レイマー等は確実に次代のアメリカン・ピクチャーを担っていくスターに成長するだろうというのがもっぱらの評価である。

監督は「ザ・ドライバー」のウォルター・ヒル。脚本家出身で「ゲッタウェイ」で既にその名声をかちえている。製作は「グレート・スタントマン」のロレンス・ゴードン。彼と製作総指揮のフランク・マーシャル（ペーパーマン）及び監督のウォルター・ヒルのトリオは「ザ・ドライバー」に引続いてのチームでもある。彼らはこの映画で、実在のチンピラ・グループをモデルにしたものではなく、実話に基づいて製作したものでなく、グループの一員になるという事の意味即ち、共に闘うこと、忠誠心、助け合い、そして勝利を分かち合うこと.....を描こうとした、と言っている。

原作はソル・ユリリック。ニューヨークのストリート・キッドのメンバーヘインタビューをし、かつ彼らの活動を観察した結果、書き上げられた。彼は、ニューヨークに生まれ、ニューヨークで育ち、ニューヨークのブルックリン大学で修士号をとった生粋のニューヨーク人である。  
 カメラは25年のキャリアを持つアンドリュース・ラズロ。ロケはその殆どがニューヨークでなされた。コニーアイランドを始め、ブロンクス公園、市道路、マンハッタンからブルックリン、クイーンズへの地下鉄の駅などがそれぞれである。

# WE ARE THE BEST!

ウォリアーズ・ナイン+ワン

**ベースボール・フューリーズ**  
 THE BASEBALL FURIES  
 際立つ特徴が不気味なまでの黒のペイント。夜のニューヨークによく映える...

**ポッパーズ**  
 THE BOPPERS  
 ハイなファッション・センスを強調したニグロのダンディ・チーム

**リジーズ**  
 THE LIZZIES  
 ユニオン・スクエア駅で「パンクス」と共存している。それも全員が「女」であるから。

**ハイ・ハッツ**  
 THE HI-HATS  
 組の名が示すように組員全部がシルク・ハットをかぶっている。

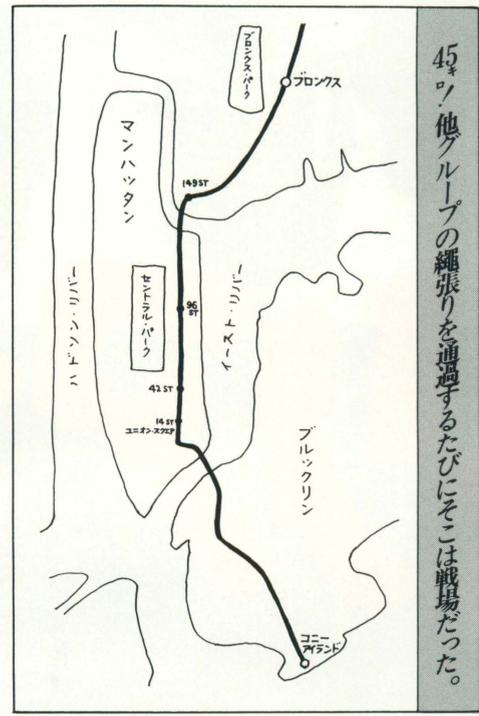
**前門の虎、後門の狼、ウォリアーズの行手に群がるストリート・キッド達!!**

**グラマシー・リフス**  
 THE GRAMERCY RIFFS  
 グラマシー・パークを根城とし、ニューヨークのストリート・キッドの中でも最大の實力と組織を誇る。

**パンクス**  
 THE PUNKS  
 ユニオン・スクエア駅を根城とする。ロー・スタートをはいな見張りがある。チェーンや飛び出しナイフなどで武装している。

**ローグス**  
 THE ROGUES  
 偏執狂的なリーダー、ルーサーに率いられる。見識ないリーダーの暴走が組を自滅させる。

**ターンブル A.C.S**  
 THE TURNBULL A.C.S  
 形勢隆々、先大ニ棒のような腕で角材を振り回す。頭髪をツルツルに剃り上げ、刺青をしている。



45% 他グループの縄張りを通過するたびにそこは戦場だった。

<p><b>スワン</b>                  マイケル・ベック                  ●沈着冷静な洞察力と過確な決断力でグループの窮地に立ち向かう。</p>	<p><b>スノウ</b>                  ブライアン・タイラー                  ●背が高くやせているが腕には自信を持つ。</p>
<p><b>エイジャックス</b>                  ジェームズ・レイマー                  ●マサイ族の戦士の顔と体を持つ男。怒りっぽいというのが一番。程やかな表現、残酷無比。女に弱い。</p>	<p><b>コチーズ</b>                  デビッド・ハリス                  ●乱暴でケンカ早い。</p>
<p><b>フォックス</b>                  トーマス・ウェイト                  ●小柄で身軽、静かに動き回りどこでも登る事ができる。</p>	<p><b>カウボーイ</b>                  トム・マックターリック                  ●いつもステッドソン帽をかぶっている。考え方は柔軟、頭の回転が早く人に好かれる。</p>
<p><b>クレオン</b>                  ドーシー・ライト                  ●ウォリアーズのリーダー。タフな統率力でメンバーを引っばる。</p>	<p><b>レンブラント</b>                  マルセリーノ・サンチェス                  ●感情の動きが激しいが芸術家タイプ。</p>
<p><b>マーシー</b>                  デボラ・ファン・ファルケンバー                  ●目的の無い人生から脱出しようとしてスワンを知る。</p>	<p><b>バーミン</b>                  テリー・ミコス                  ●不平が多いが必要な時にはいつでもその場にいる男。</p>

9月15(祝)日 衝撃のロードショー! 特別鑑賞 ¥1,000 絶賛発売中!

渋谷東急 (407) 7029

日・祝 10:05 平日 12:00 1:55 3:50 5:45 7:40

(一般 ¥1,300・大学 ¥1,200の処)